

2021.4.27

緊急事態宣言が解除された 2021 年 3 月のスタートアップ雇用指数「WANTEX」を公開 昨年比で昨月からの下落幅は減少し、2.48 という結果に(前月比-0.18 ポイント)

スタートアップ企業がビジネス SNS「Wantedly」へ掲載した募集数に対する応募者数の割合を
日本におけるスタートアップ経済の成長性を示唆する先行指標として公開
コンサルティング業界、金融・保険業界においてデジタル人材のニーズが伸長



ビジネス SNS「Wantedly」を運営するウォンテッドリー株式会社は、2021 年 3 月版のスタートアップ雇用指数「WANTEX」(Wantedly Job Market Index、読み：ウォンテックス)を公開しました。

緊急事態宣言が解除され、昨月からの下落幅は前年同時期の半分で着地

WANTEX は東京都が緊急事態宣言を発出した 2020 年 4 月~5 月から上昇を続け、2020 年 12 月には過去最高値を更新しましたが、緊急事態宣言が再度発出された 2021 年 1 月から下落が続いています。2 月度から 3 月度にかけての変動に着目すると 2020 年 3 月の 0.36 ポイント減に対して 2021 年 3 月は 0.18 ポイント減となり、昨年の減少幅の 2 分の 1 に留まりました。

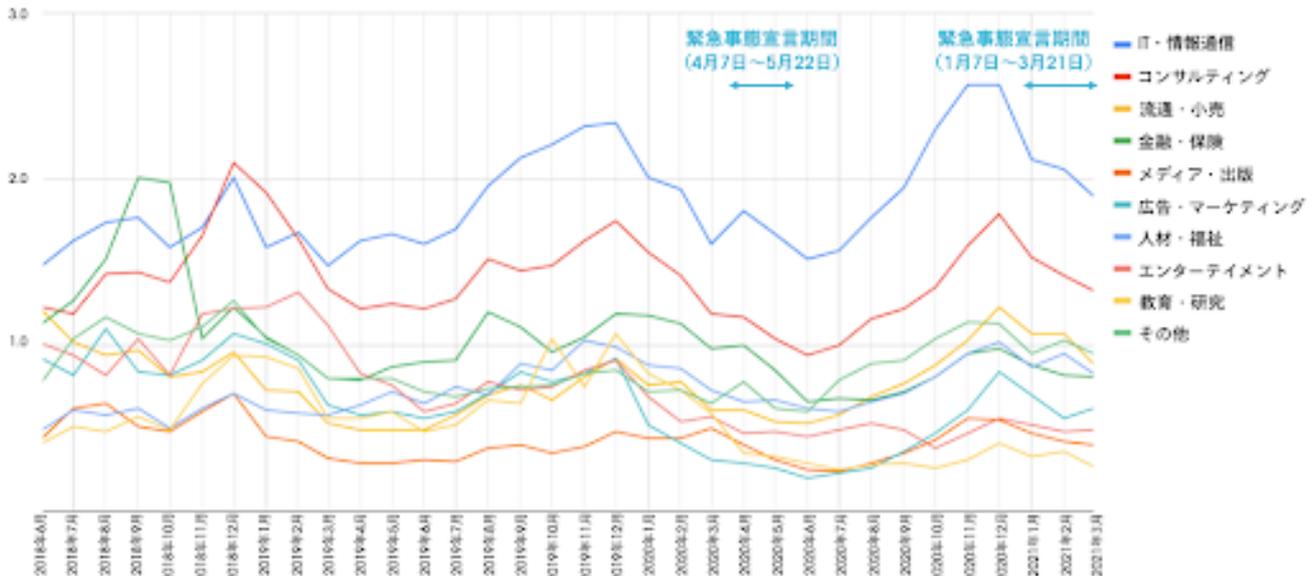
WANTEX 推移



業種別では2業種のWANTEXのみ対昨月比で増加するという結果に

業種別のWANTEX推移を見ると、広告・マーケティング、エンターテイメント以外の業種において減少傾向が見られました。

業種別WANTEX推移



2021年3月時点のWANTEXの業種別ランキングは以下の通りで広告・マーケティング業界が対昨月比111%と最も大きな伸びを見せました。WANTEXが1倍を割り込んでいる業種においては募集数に対して応募人数が超過しているため、該当業種のスタートアップ企業は採用しやすい状況にあると思われます。

表1：業種別WANTEXランキング（21/3月）

No.	業種	WANTEX	対昨月比
1	IT・情報通信 -	1.90	92%
2	コンサルティング -	1.33	94%
3	流通・小売 -	0.89	83%
4	人材・福祉 -	0.83	87%
5	金融・保険 -	0.81	99%
6	広告・マーケティング -	0.62	111%
7	エンターテイメント -	0.49	102%
8	メディア・出版 -	0.40	95%
9	教育・研究 -	0.27	75%

長期化した緊急事態宣言、デジタル人材ニーズまで影響したか

表1よりIT・情報通信業を除き、募集の対象職種をデジタル人材に絞った業界別 WANTEDLY を算出したところ、デジタル人材の WANTEDLY はコンサルティングと金融・保険の2業界を除き対前月比で減少を記録。表1でもほとんどの業種で減少していることから、全体の流れに付随する形でデジタル人材 WANTEDLY も下落していると思われます。

表2：業種別デジタル人材WANTEDLYランキング（21/3月）

No.	業種	WANTEDLY	対前月比
1	コンサルティング -	1.45	101%
2	金融・保険 -	1.17	108%
3	流通・小売 -	0.91	91%
4	エンターテイメント ↑	0.61	85%
5	メディア・出版 ↑	0.58	92%
6	教育・研究 ↓	0.54	63%
7	広告・マーケティング ↓	0.52	81%
8	人材・福祉 -	0.43	88%

※デジタル人材定義：「エンジニアリング」「PM・Webディレクション」「デザイン・アート」の3職種でWantedlyに登録している人を指します

埼玉県が初のTOP3入り、宮崎県は6ヶ月連続1位を記録

東京都を除いた46道府県における WANTEDLY に着目すると、埼玉県が対前月比120%と最も大きな伸びを見せ初のTOP3入りを果たしました。宮崎県は WANTEDLY 公開開始の昨年10月から6ヶ月間連続で首位を記録。TOP10には新潟県が新たにランクインしました。

表3：道府県別WANTEDLYランキング（21/3月）

No.	道府県	WANTEDLY	対前月比
1	宮崎県 -	2.36	95%
2	京都府 ↑	1.38	110%
3	埼玉県 ↑	1.27	120%
4	大阪府 ↓	1.21	88%
5	愛知県 -	0.94	78%
5	福島県 ↓	0.94	71%
7	神奈川県 ↓	0.84	76%
8	北海道 -	0.59	78%
9	新潟県 ↑ NEW	0.56	76%
10	福岡県 ↓	0.45	74%

※非首都圏地域の WANTEDLY：該当する道府県を所在地として登録しているスタートアップ企業の掲載募集数を、それに対する応募者数で割り込んだ数を指します。

先月の順位から変わらず、今月も TOP2 をデジタル系職種が占めるという結果に

2021年3月時点の職種別 WANTEDLY に着目すると、エンジニアリング職種が先月に引き続きトップを飾るという結果に。その他の職種でも先月の順位から動きは見られませんでした。

表4：職種別 WANTEDLY ランキング（21/3月）

No.	職種	WANTEDLY	対昨月比
1	エンジニアリング -	3.59	94%
2	PM・Webディレクション -	2.04	88%
3	セールス・事業開発 -	2.01	92%
4	メディカル系 -	1.91	112%
5	コーポレート系 -	1.62	101%
6	デザイン・アート -	1.36	86%
7	コンサルティング -	1.35	91%
8	カスタマーサクセス・サポート -	1.31	96%
9	マーケティング・PR -	0.98	82%
10	編集・ライティング -	0.67	94%

スタートアップ雇用指数「WANTEDLY」について

■ スタートアップ雇用指数「WANTEDLY」の定義

【算出式】「WANTEDLY」 = (スタートアップ企業が掲載している公開状態にある) 募集数 ÷ (スタートアップ企業への) 応募者数

※スタートアップ雇用指数は上記式の各項を月次で合算して算出しています。

※ 募集数、応募者数ともに、Wantedly で公開された募集、応募した登録者を算出対象としています。

※ スタートアップ企業は算出月から創業 10 年以内の企業を指します。

■ WANTEDLY 公開の背景

Wantedly はスタートアップ企業とともに成長し、2020年の情報・通信業に分類されるマザーズ上場企業のうち、約 7 割にご利用いただくに至りました。世界的には米国、中国を中心にスタートアップ経済が活況を示す中、未来の日本の産業を創る新興企業のトレンドを可視化することで、私達は/当社は日本のスタートアップ経済をより一層盛り上げていきたいと考えています。そのため、2020年11月よりスタートアップ経済の成長性を示唆する新たな先行指標として、スタートアップ雇用指数「WANTEDLY」の公開を開始いたしました。

ウォンテッドリーは、企業の潜在転職者への認知形成、共感を軸とした人と企業の出会いの創出を提供しながら、入社後の従業員の定着、活躍を支援するエンゲージメント事業を推進しております。スタートアップ雇用指数「WANTEDLY」の公開を通じて、未来の日本の産業を創るスタートアップシーンの盛り上がりを加速させることで、Wantedly が「はたらくすべての人のインフラ」となる世界の実現を加速させてまいります。

ウォンテッドリーについて

ウォンテッドリーは、『シゴトでココロオドルひとをふやす』ために、はたらくすべての人が共感を通じて「であい」「つながり」「つながりを深める」ためのビジネス SNS「Wantedly」を提供しています。2012年2月のサービス公式リリースから現在まで、登録会社数40,000社、個人ユーザー数300万人を突破し、国境を越えて『はたらくすべての人のインフラ』を創っていきます。

<会社概要>

会社名 : ウォンテッドリー株式会社
URL : <https://www.wantedly.com>
本社所在地 : 東京都港区白金台 5-12-7 MG 白金台ビル 4F
代表取締役 : 仲 暁子
設立 : 2010年9月
事業概要 :

300万人以上が利用するビジネス SNS「Wantedly」

- 気軽に会社訪問ができる Wantedly Visit
- 活躍を共有する SNS Wantedly People

ビジネス向け

- 採用マーケティング
- エンゲージメント Suite